



(4)

「ハワイ紀行」(1)の続きです。(1)から読むとストーリーが判りやすいと思います。



【連載31】バックパックを脇に置いて、これから長旅に出るはずなのに実につまらなさそうな表情の20代の女の子、一目で海外の生活が長いと判る50がらみの女性など、たくさんの旅人を観察する。

【連載32】ハワイ行きの便を待つ人々は、華やかな服装に身を包んでいることが多い。男性もアロハを着ていたり、女性も原色の花が描かれたワンピースを着たりしている。マキシ丈のワンピースのなかのふわっとした空洞が揺れながらこちらに近づいてくる…

【連載33】と、わたしはそのマキシドレスを着た女性がわたしに向かってほほえんでいることに気づく。summeryerさんですか？いきなり名前も言い当てられて、わたしは少々まごついた。

【連載34】驚かせてしまっておめんなさい。Twitterの企画を知ってあなたをフォローしたら、どうやら同じ日に出発するみたいなことがわかって。その上ここでお見かけしたら声をかけたくな

って。女性は綺麗な笑顔でわたしにほほえんだ。

【連載35】日本からハワイに渡航するのは一日に平均4000人を超える。だからフォロワーのなかで、同じ日にハワイに行くという人間がいてもなんら不思議はなかった。そのうえわたしは顔写真を公開している。Twitterのアイコンも顔写真だ。

【連載36】だから顔とこの企画を知っている誰かにはハワイで声をかけられる可能性はまったく考えていなかったわけではない。しかしそれでも、実際にそれが起きてみるとそれなりに動揺する。ああ、そうなんですか。わたしは努めて笑顔を作る。

【連載37】せっかくだからあなたのtwitterアカウントを教えてくださいませんか。気がつけばわたしはそんなことを口走っていた。女性は快くそれに応じて、笑顔のままぺこりと頭を下げて、また向こうへ行ってしまった。

【連載38】わたしは女性が完全に見えなくなると、教えられた女性のアカウントを捜した。彼女のプロフィールに目を通す。趣味に旅行や読書、美術鑑賞を挙げており、普段のツイートは、読んだ本や行った展覧会の感想などを的確な言葉で簡潔に、かつ豊かに表現している。

【連載39】しかし、普段、会社勤めをしているのか、主婦なのか、そういう彼女の属性を表すような言葉もヒントになるような言葉も見あたらなかった。先ほどは動転していたせいか彼女のことをよく観察できなかった。20代とも30代ともとれるような声色と喋り方だった。

【連載40】夜の成田を発ってハワイの朝の時間に到着してみれば、ホノルル空港は暗い雲とスコールに包まれていた。タクシーを待っていたとき、突然雨は止み、祝祭的に輝くベールのような光が、がばっと世界を反転させる。







【連載41】 空港の敷地内の樹木の巨大な白い花が無数の雨滴を弾いて、しゃらしゃらと音が鳴りそうに光っている。でも、あたりの磁場を重くするほどの濃厚な匂いが、この白い花の発するものだと気づいてぎょっとした。前にこの空港にきたとき、こんなきつい匂いがしただろうか。

【連載42】 タクシーの運転手は日系の老人だった。こんな年老いた運転手が働いていることに驚いていると、「花の匂い？それは雨のせいさ」と言われて納得しかけたが、わたしはそもそも運転手に花の匂いが気になるということを告げただろうか。

【連載43】 ホテルに着くまで、また数回シャワーのような雨が降った。わたしはもどかしい思いで携帯電話からtwitterに接続を試み、例のファーストクラスの男性と、コンコースでわたしに話しかけてきた女性のアカウントをチェックした。

【連載44】 男性のほうのタイムラインを全て読んでみると、@マークを使って誰かと喋っている。そのアカウント名は、ほかでもない、コンコースで喋り書けてきた女性だ。「ハワイもここ最近気候がおかしくて雨の降る日が増えたと聞きます」と、女性に対してコメントしていた。

【連載45】 いつも、「コンコースで喋りかけてきた女性」と書くのもまどろっこしくて仮名を彼女につけたいと思い、蓉子という名を思いつく。単に彼女のアカウントのアナグラムからとった



名前だが、字面といい響きといい、相応しいとわたしは満足する。

【連載46】名前を与えた瞬間、彼女はわたしにはただ偶然会ったに過ぎない人間とは異質の人間となった。このツイートを読んで彼女はどう思っているのか。蓉子という名前は気に入ってくれただろうか。それとも全く読んでなどいないのか。

【連載47】そしてファーストクラスの男性には幾通りかのアナグラムを比較しつつ紫藤という名前をつけることにした。高齢の運転手に「ハワイには仕事？」と聞かれ、そういえばこれは仕事なのだった、とツイートを書くためにボタンを押していた指に力の入りすぎていたことに気づく。

【連載48】紫藤と蓉子は、もともと知り合いだったのかと思いきや、蓉子のほうがハワイに到着して初めて紫藤に@を使って初めまして、と話しかけているのを読んだ。紫藤がハワイに今到着したというツイートをしたのを、偶然蓉子が検索で見つけたのだろうか。

【連載49】わたしが紫藤を、成田エクスプレスで見かけたそのときから、蓉子は紫藤を捜していたのだろうか。なんのために？ただの興味本位？イタズラ心？わたしには理解できない。紫藤がわたしのツイートを読む可能性について考える。可能性はあるし、ないとも言えた。

【連載50】誰かが外国にいるときに書いたものや外国にいたときを回顧して描いたものが好きだ。外国にいる人間は孤独なのだが、かりそめの孤独は案外甘美だ。読者はたやすく感情移入して、たやすく離れられる。だからわたしも外国にいる自分の呟きを書き留めておこうと思ったのだ。



